

① JAPIC 伊藤 太郎

# スピード感あるパリのまち政策 & スペイン地方都市の底力





# CYCLE FRIENDLY CITY PARIS

歩行者・自転車優先の空間再編が進むパリ

セーヌ川沿いのバイパス道路 1車線を自転車専用道路として再整備（伊藤撮影）

# パリ市 視察のねらい

- 新たに生まれ変わろうとするパリのまち政策を体験する！
  - 2016年にスタートを切った「グラン・パリ計画」  
「パリ大都市圏化」や、パリ市による具体的な「まち政策」効果の確認
  - 「交通インフラの改善」など「グラン・パリ計画」の進捗確認
  - 「グラン・パリ計画」による大規模開発の視察
  - 「道路の主役を車から人へ」 主役変更の動きは順調ですか？

# 1. グラン・パリ計画

グローバリズムが進んだ今世紀、「世界のパリ」にも都市間競争力を高める変革が求められた。

2010年 サルコジ大統領が、大都市圏(グラン・パリ)の国際競争力強化を目的とした、「グラン・パリ法」を制定。

すぐには具体的には動けず、自治体連合「パリ首都圏(メトロポール・デュ・グラン・パリ)」が成立し、2016年1月「グラン・パリ計画」(La Métropole du Grand Paris)がスタート。

※ 2025年3月時点 計画スタートから丸9年間が経過

# 1. グラン・パリ計画

「グラン・パリ計画」では

- ・ 現在20区であるパリ市と 周辺2県の郊外自治体を統合
- ・ 面積ではパリ市の8倍 814km<sup>2</sup> 約720万人が居住予定
- ・ NYやロンドン、東京に匹敵する「大都市圏」を目指す
- ・ 2050年カーボンニュートラル達成を目指す

※ パリ大都市圏 814km<sup>2</sup> 約706万人 ÷ NY 784km<sup>2</sup> 約833万人  
東京23区 628km<sup>2</sup> 約985万人

計画の理念

- ・ 「パリに一極集中していたパワーバランスを分散し、調和のとれた大都市圏とすることにより、都市間競争力を高めつつエコロジーと持続可能性をも実現すること」

# 1. グラン・パリ計画

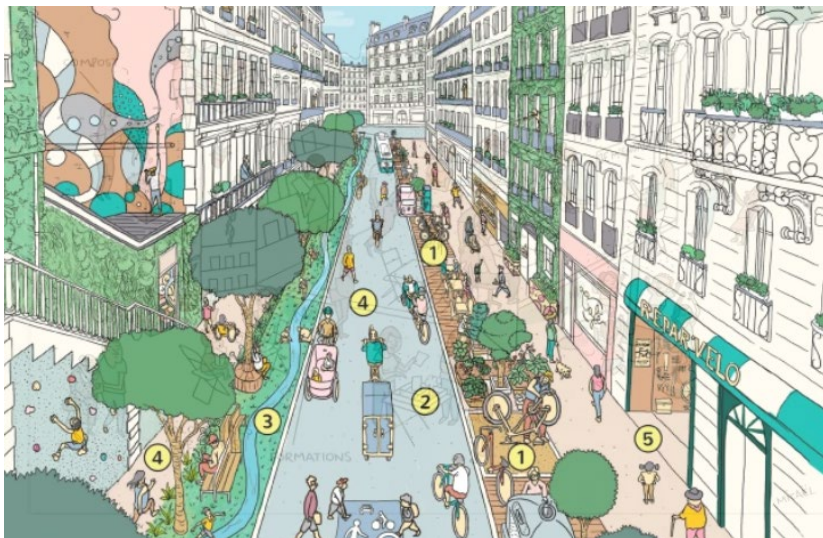
## ・「交通インフラの改善」

- 新公共交通網の構築（メトロや郊外線、LRTの延伸・新規開設）
- 「パリ共有」計画（＝歩行者自転車優先&自動車乗り入れ制限）
- 自転車レーン拡大（専用レーン181km<sub>2000年</sub>⇒1094km<sub>2021年</sub>実現）
- ラウンドアバウト(環状交差点)撤去と信号機設置

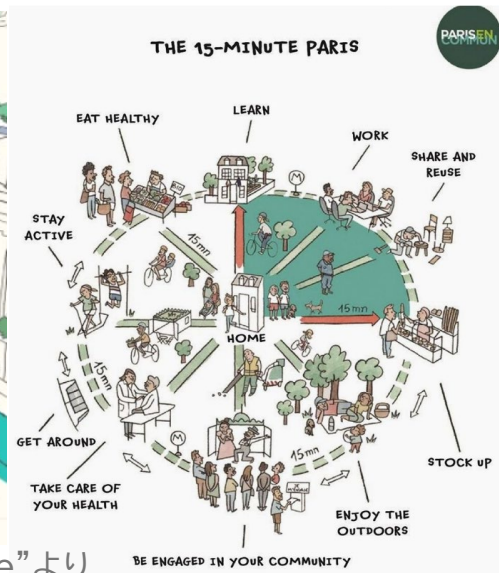
# 1. グラン・パリ計画 と イダルゴ市長の公約

パリ市では「グランパリ計画」に加え、イダルゴ パリ市長の2020選挙マニフェストである「まちづくりコンセプト」「15-minute city」によって交通政策が劇的に進んでいる。

15分都市は、「市民が買い物や仕事・学校まで、徒歩や自転車によって15分以内で行けるまちづくりを目指し、自動車を必要としない生活」、「100%自転車移動」を目指している。



パリ市”la ville du quart d’heure”より



AI(Gemini) 15分都市イメージ図

## 2. 交通インフラの改善 自転車道路整備

### パリ市の自転車道路整備 ①

「グランパリ計画」と協調して進むイダルゴ市長のまちづくりは、セーヌ河岸のバイパスレーンを廃止し、遊歩道や自転車専用道路に変えるなど「歩行者・自転車重視の空間整備」を大きく推進。



バイパス道路1車線を廃止し自転車道に付け替え 伊藤撮影



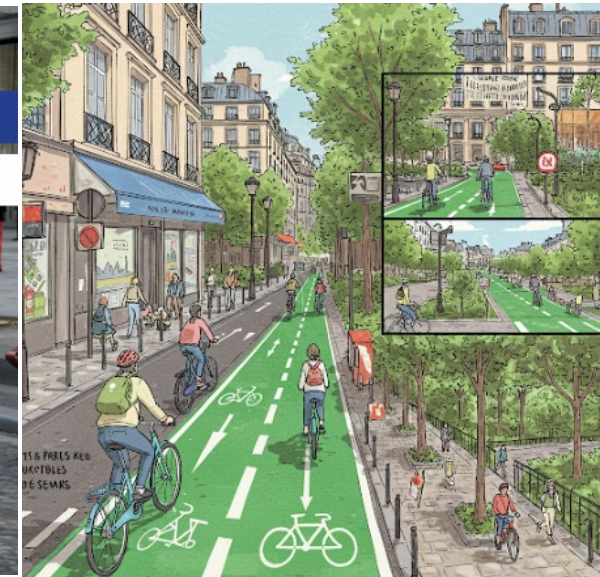
国土交通省資料 海外の自転車施策よりパリの事例



## 2. 交通インフラの改善 自転車道路整備

### パリ市の自転車道路整備 ② 「パリ市`21-`26自転車計画」

- ・「100%自転車で移動できるまち」
- ・新たに180kmの自転車専用レーンの整備
- ・5年間の予算は2億5000万ユーロ(約410億円)！



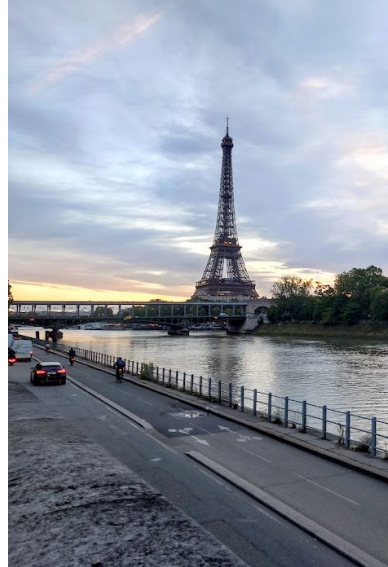
パリ市「Plan vélo 2021-2026」より

パリ市「Plan vélo 2021-2026」より

AI(Gemini) パリの自転車政策イメージ図

## 2. 交通インフラの改善 自転車道路整備

### パリ市の自転車道路整備 ③

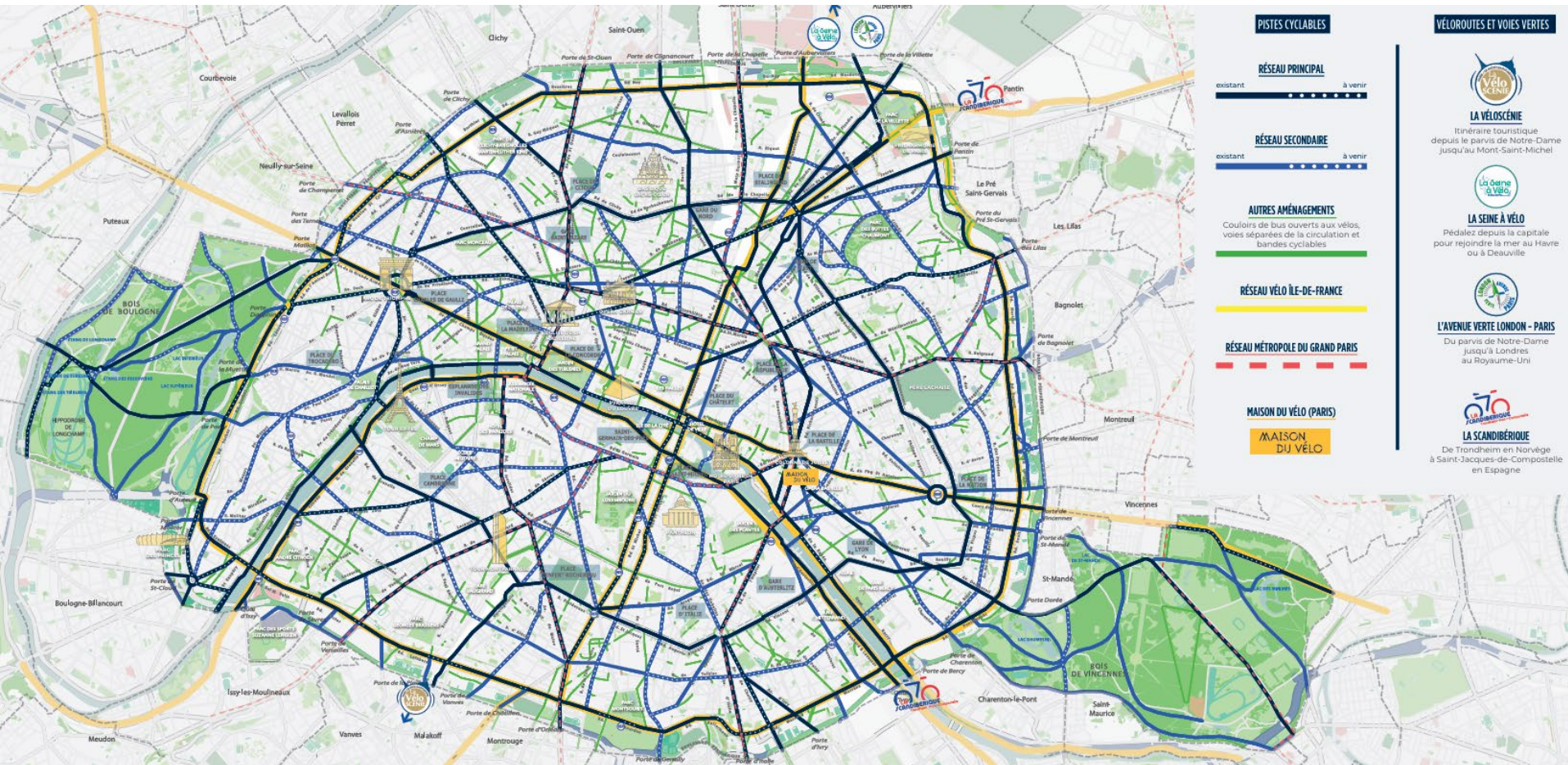


パリ市内主要道路 自動車道路から自転車専用道路への付け替え 伊藤撮影

パリ市主導のレンタル自転車システム「Vélib(ヴェリブ)」 伊藤撮影

## 2. 交通インフラの改善 自転車道路整備

### パリ市の自転車道路整備 ④

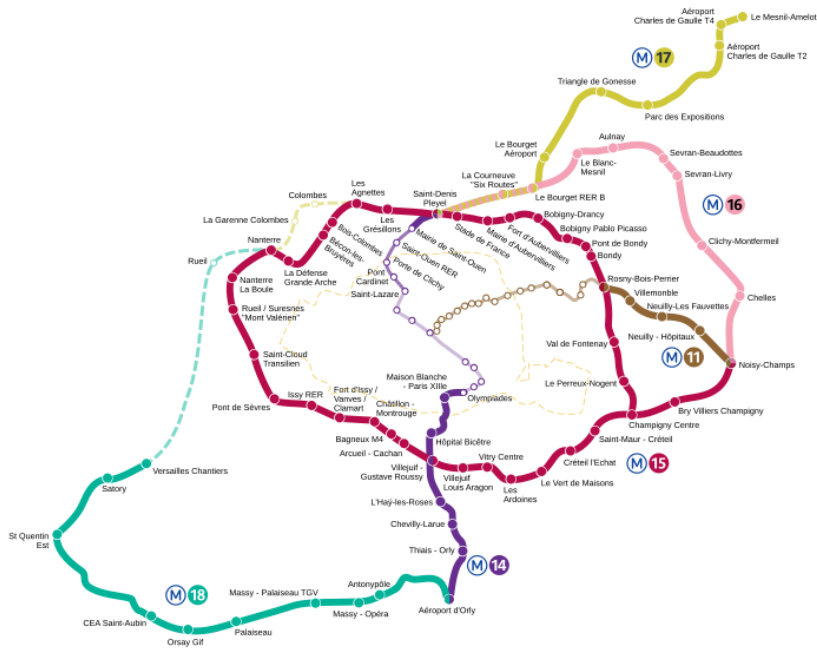


パリ市「Plan vélo 2021-2026」より 自転車専用道路整備マップ

# 3. 交通インフラの改善 公共交通

「グランパリ・エクスプレス計画」と名付けられ、地下鉄および郊外線、LRTの延長および新路線整備が進められている。

- 11号線 14号線延伸
- 15号線~18号線新線整備



パリ市 グランパリエクスプレスhpより

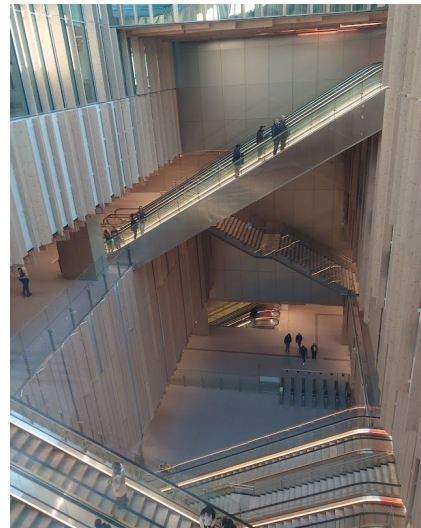


パリ市 グランパリエクスプレスHPより

### 3. 交通インフラの改善 公共交通と都市整備

整備が進むグランパリ・エクスプレスの新設駅では、建築家とアーティストが組んで駅舎をデザインしています

パリ市北部の「サン・ドニ＝プレイエル駅」では「隈研吾」設計の駅舎が新たに整備されています。



サン・ドニ＝プレイエル駅 伊藤撮影

サン・ドニ＝プレイエル駅位置を伊藤加筆

### 3. 交通インフラの改善 公共交通と都市整備

「サン・ドニ＝プレイエル駅」

「隈研吾」設計駅舎 (すごい仕上げ)



サン・ドニ＝プレイエル駅 伊藤撮影

## 4. 交通インフラの改善 公共交通と都市再編

### 「ポルトマイヨ(Porte Maillot)地区再生事業」 ①

凱旋門から続く都市軸上、ポルトマイヨ広場周辺の円形ロータリー、南北に連なる環状高速とジャンクションがまとまった渋滞ポイントと知られた。

単なる交通課題の解消ではないグランパリ計画の都市再生プロジェクト。



パリ市HPより 2010年当時



パリ市HPより 2025年予想図

## 4. 交通インフラの改善 公共交通と都市再編

### 「ポルトマイヨ(Porte Maillot)地区再生事業」 ②



パリ市HPより ポルトマイヨ地区再生事業

下絵は元の土地利用 上に再編計画図

#### 【プロジェクト概要】

- ・ 既存の自動車専用ロータリーに代え中央に道路新設 (ラウンドアバウトの廃止・信号機の設置)
- ・ 自転車専用道路、新しい歩行者空間の新設
- ・ 公共交通アクセスの改善 (E線の延伸新駅設置、LRT3号線の延伸新駅設置)
- ・ ブルゴーニュの森の延長上に新たな緑地帯を整備
- ・ マイヨール駐車場とそのアクセスを新計画に整合
- ・ 事業スケジュールは2025年度完了予定



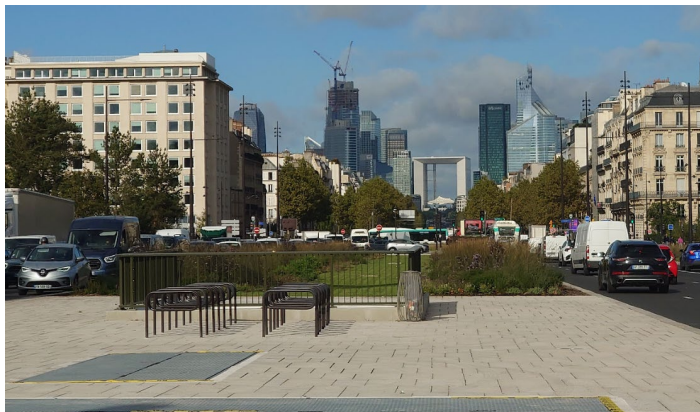
## 4. 交通インフラの改善 公共交通と都市再編

### 「ポルトマイヨ(Porte Maillot)地区再生事業」 ③



左 延伸トラムT2新駅 伊藤撮影

右 郊外線E線 新駅 伊藤撮影



左 中央部新設道路 伊藤撮影

右 自転車・歩行者空間 伊藤撮影

## 5. 交通インフラの改善 歩行者空間整備

「バスティーユ広場の遊歩道化(ラウンドアバウトの廃止)」

パリ市では歴史ある自動車ロータリーの広場化も進んでいる

モニュメント周りに4車線のロータリーであった「バスティーユ広場」  
ロータリーシステムを廃止し、半分を遊歩道広場へ更新整備。



バスティーユ広場の遊歩道化 パリ市HPより



遊歩道化されたバスティーユ広場 パリ市HPより

## 6. 交通インフラの改善 特効薬はない

### ひどくなったパリの自動車渋滞に特効薬はない ①

イダルゴ市長のすすめる 自動車から歩行者・自転車優先のまちづくりは大きく進んだ一方、パリ中心部では自動車渋滞がさらにひどくなっている。

パリ市の交通渋滞問題は、パリ市中心部の街の成り立ち、「街の姿が中世の街並みそのまま」もあり、自動車走行を想定されたものでないこと、セーヌ河が東西に横切っていて多くの橋ではつながっているものの、自動車走行には橋の幅員が狭いことなどが原因であると語られている。

パリ市長のまちづくりに加え、フランス政府の環境対策からも、自動車交通への依存を減らす方針でもあり、自動車渋滞に行政が躍起に取り組んでいる様子は見られない。

## 6. 交通インフラの改善 特効薬はない

### ひどくなったパリの自動車渋滞に特効薬はない ②



セーヌ川 アルマ橋周辺の交通大渋滞 伊藤撮影

## パリ市 視察を終えて、特に伝えたいこと

- パリのまちづくり政策実行力のスピード感！
- パリ市内では自転車専用道路の整備が急速に実現化されている。
- イダルゴ市長再選からわずか4年間。歩行者・自転車優先のまちづくり(=空間再編)の整備スピードは非常に速い。
- グランパリ計画スタートからわずか9年間、公共交通機関網の地下鉄・LRT延伸や新規路線整備も着実に進捗している。
- 市民の移動手段が自動車から自転車利用へ着実に転換している。
- パリでは「道路の主役を自動車から人へ」をスローガンに、「車を必要としない、自転車や徒歩での生活圏を整備するコンセプトのまちづくり」が進行中。
- 自動車渋滞対策に特効薬はない「しょうがないもの」として認識され、車利用は確実に減っていくだろう

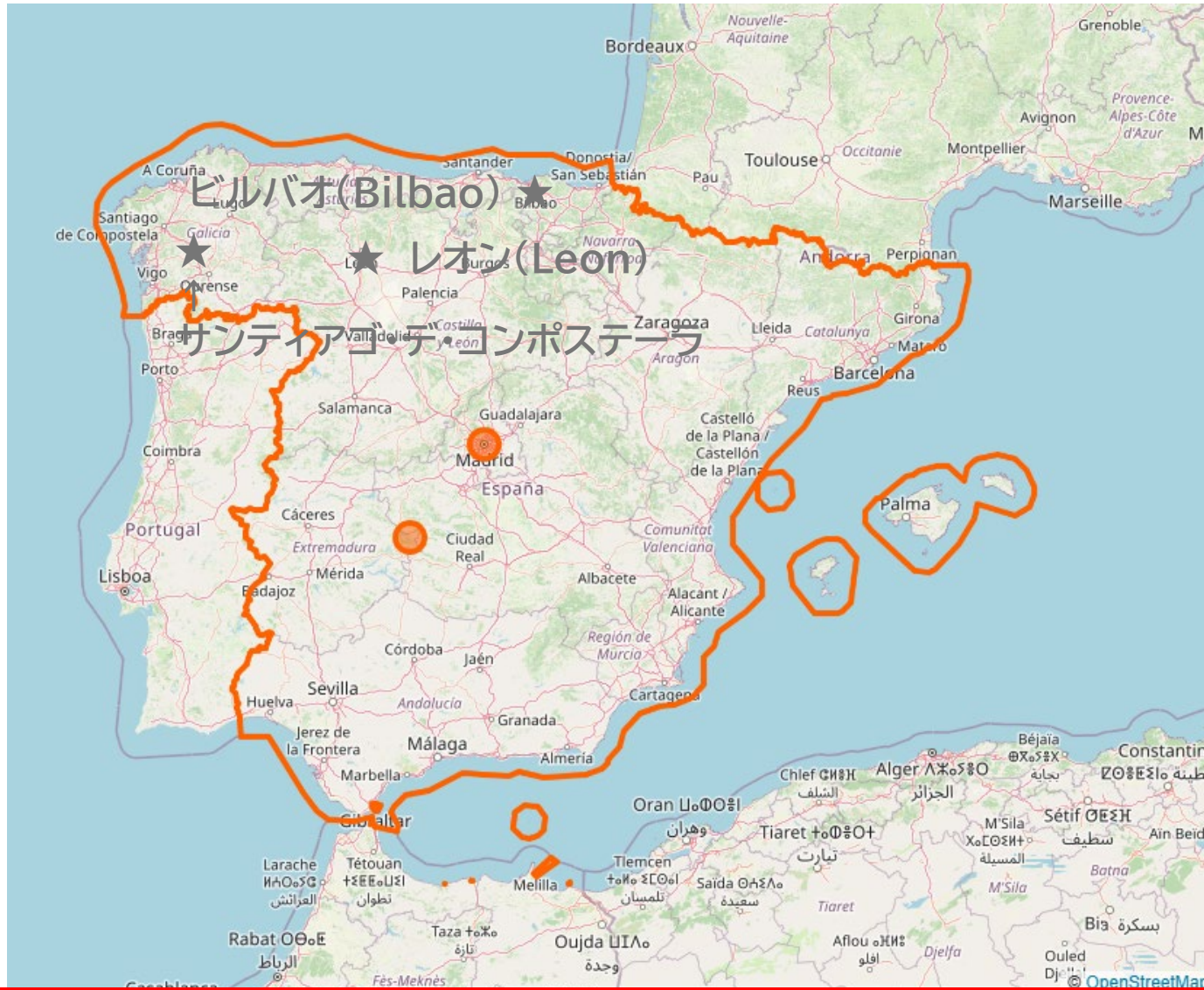


# Ciudad Regional Española ス페인地方都市

それぞれの歴史文化が生き続け  
各都市の魅力が溢れていた

早朝のレオン旧市街 マヨール広場 (伊藤撮影)

# スペイン 北部地方都市



# スペイン地方都市 視察のねらい

- マドリードやバルセロナとは違う、「スペイン北部の地方都市」を体験。
- 日本とは違う行政スタイル、スペインの「自治州」の意味合いを確認。
- 人口10-35万人規模の北部地方都市の現状を体験する。



AI(Gemini)によるスペイン地方都市のイメージスケッチ



# スペイン 北部地方都市 自治州

「憲法で認められた「自治の原則」、国の構成要素は「民族」と「地域」

- ・スペインは元々、数多くの小国・公国などであった地方自治国の集合。
- ・フランコ独裁政権崩壊後、1987年に新憲法が公布、この憲法に新たな行政組織「自治州」が創出され、「都市・地域計画および住宅の整備に関する権限は中央政府から自治州へ移譲されている」

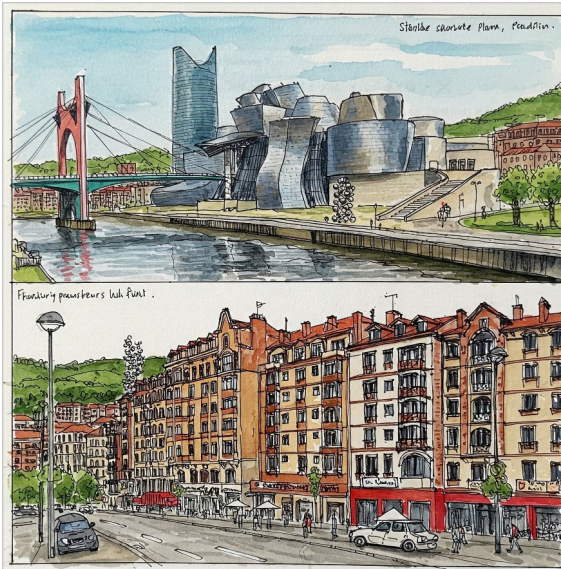


スペイン自治州地図（スペイン観光局）

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「文化・観光による都市再生(バスク自治州)」 ①

- ・ビルバオはスペイン北部の工業都市・港湾都市
- ・面積40.65km<sup>2</sup>、
- ・人口34.58万人 都市圏103.78万人
- ・スペインとフランスにまたがるバスク地方
- ・バスク自治州の州都。
- ・バスク語がスペイン語とともに公用語。



AI(Gemini)によるビルバオ市イメージスケッチ



市内中心部マップ(スペイン観光局資料より)

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「文化・観光による都市再生(バスク自治州)」 ②

### ■ 都市再生の概要

#### 1 衰退からの脱却:

- ・1980年代、鉄鋼業の衰退により都市機能が低下
- ・深刻な失業問題、治安悪化、環境汚染など



AI(Gemini)衰退したビルバオイメージ

#### 2 都市再生プロジェクトの始動:

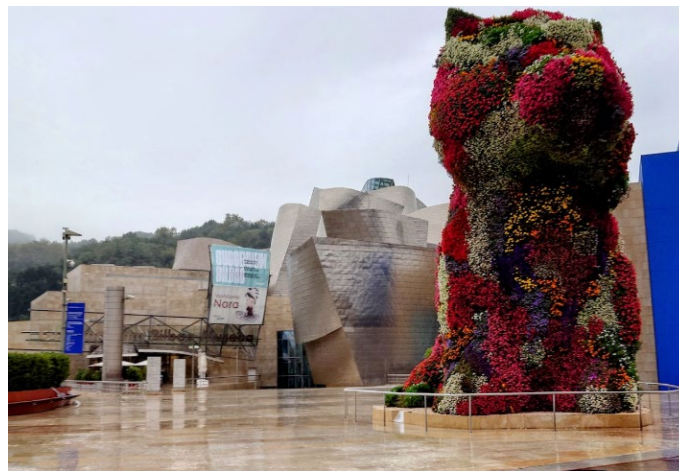
- ・1989年 ビルバオ市による「ビルバオプラン」  
「環境の再生」「文化への投資」+「市街地の再開発」「公共交通インフラ」
- ・自治州・市による都市再生プロジェクト「ビルバオ・リア2000」が始動
- ・経済再生、都市環境の改善、文化・観光の振興を柱とする戦略を策定

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「文化・観光による都市再生(バスク自治州)」 ③

### 3 グッゲンハイム美術館の建設:

- ・1997年、フランク・ゲーリー設計のグッゲンハイム美術館が開館。
- ・斬新なデザインと芸術性で世界中から注目を集め、観光客が急増。
- ・ビルバオ市再生の起爆剤。
- ・€1億3千万 巨額投資 わずか5年の税収効果で回収



グッゲンハイム美術館 (伊藤撮影 伊藤撮影 JTB大塚氏撮影)

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「文化・観光による都市再生(バスク自治州)」 ④

### 4 インフラ整備と都市開発:

- ・メトロ、トラムなどの公共交通機関を整備。
- ・ネルビオン川の浄化、水辺空間の創出。
- ・大規模な都市開発を実施。



新市街を走るトラム ノーマンフォスター設計メトロ駅 スピスリ橋とイソザキタワー(伊藤撮影)

### 5 文化・観光都市への転換:

- ・グッゲンハイム美術館を核とした観光客誘致。
- ・文化施設の整備、音楽祭、アートプロジェクトの推進。

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「文化・観光による都市再生(バスク自治州)」 ⑤

### 6 成功の要因:

- ・官民連携による強力なリーダーシップ。
- ・(ビルバオ市、バスク州&ビルバオ市)長期的なビジョンと戦略。
- ・グッゲンハイム美術館という象徴的な存在。
- ・市民参加型のまちづくり。

### 都市再生の成果

- ・経済の活性化、雇用創出。
- ・都市イメージの向上、観光客増加。
- ・生活環境の改善、治安回復。
- ・文化・芸術都市としての国際的な評価。
- ・ユネスコ認定「デザイン都市」
- ・都市計画におけるプリッカー賞 リー・カンユー賞を受賞



AI(Gemini) ビルバオの都市再生イメージ

# スペイン 北部地方都市 ビルバオ

## 「環境対策でも着実な取組み」

- ・温室効果ガス排出低減を目的として、24年6月から、低排出ゾーン (ZEB) 設定。登録年数長い自動車乗り入れ禁止時間(7am-8pm)指定。
- ・違反車両は街に27台の違反者監視カメラがナンバープレートと照らし合わせ摘発している。
- ・ZEB内部居住者車両、配送車両、緊急車両などは対象外。
- ・バスク自治州ではビルバオに続き、人口5万人以上都市で試みを続ける。



ビルバオ市 環境対策説明資料より

市内ZEB対策注意看板(伊藤撮影)

## スペイン地方都市視察を終えて、特に伝えたいこと

- 都市ごとに人々の生活習慣、文化や歴史的背景は異なっている。「スペイン地方都市とは何であるか」など、その文化や特徴を括って語ることは出来ない。
- 地方小都市であっても自治州と共に、地球環境対策を行い、LRT整備など公共交通の利用促進を力強く進めている。
- 「旧市街」と「新市街」が明確に線引きされ、旧市街の「まち」の成り立ちからも道路の幅員など制限があり、「自家用車や観光バスの乗り入れ」や「観光客向けの駐車場」の整備はおおむね困難な状況であった。
- 「スペインの地方都市」にこそ、各都市それぞれの歴史・文化が生き続け、独自の都市の魅力が溢れていた。「地方都市の底力」を感じ取れた。

以上です。 ご清聴ありがとうございました。